

6. タイムテーブル

■ 第2日目 (9:30~11:30) 担当：内田洋行 嶋田

No.	時間	項目	内容	使用教材/機材
1	9:30 (5分)	オープニング 研修の趣旨説明	安藤先生、校長先生ご挨拶 全体のスケジュールの確認	プロジェクト 提示資料
2	9:35 (10分)	前回の振り返り	①「次期学習指導要領改訂の方向性(案)」「育成を目指す資質・能力の三つの柱(案)」の再確認。 ②学力調査分析ワークショップ結果から出された大塚小学校の児童に伸ばしてもらいたいスキル(資質・能力)の再確認・共有。	プロジェクト 提示資料
3	9:45 (10分)	21世紀を生きる児童・生徒が身につけるべきスキル	これからの社会の変革、また求められるスキルの進化について理解し、子どもたちに身に付けさせたい資質・能力(自身の授業変革により実現したい学びのゴール)を明確化する。 <u>21世紀を生きる児童・生徒が身に付けるべきスキルを考える。</u> ※今、教師として子どもたちにどんな力を身に付けさせたいか、前回の分析ワークショップの結果と併せて共有する a) 職業の変化・・・プレゼン	プロジェクト 提示資料
4	09:55 (15分)	効果的なICT活用のポイント ※前段児童・生徒が身に付けるべきスキルとの整合性、連続性に留意	効果的なICT活用のポイント ■筑波発「教科のプロもおすすめするICT活用術」より 実践授業例の紹介 1年算数「なんばんめ」 <u>ICTの特性を理解し、場面に応じた適切なICTの使用が重要なことを理解する。</u> ■「Miyagi Style」のポイントの紹介 ①効果のある場面での活用 ②教材や作業を大きく表示 ③考え方の共有	書籍 筑波発「教科のプロもおすすめするICT活用術」 プロジェクト 提示資料
5	10:25 (75分)	21世紀型スキルを育成する授業デザイン	資質・能力育成のための「学習者主体の授業デザイン」のポイントについて理解する ★分析ワークショップの結果より、今回は「読解力」に絞り、「読解力」を育む授業デザインを考える。 ★教科、単元等はグループ内で設定。テーマが絞り込まない場合は「平成28年度 授業アイデアア例 小学校」を参考「読解力」の定義→例)長文を読み込む力 質問者の意図を理解する力 …… 具体的なスキル=読解力 を定義し、そのスキルを伸ばす授業案(学習プラン表 or ホワイトボード)を考える。 ※ ①授業設計 ②評価 ③授業運営(活動) ④(できれば)ICTの効果的な活用や21世紀型スキルの視点をいれて考える。 a) Intel Teach Elements プロジェクト型アプローチ概要紹介/事前学習用ビデオの振り返り(15min) ※下段(b)～(e)項目ごとに説明 b) 授業案をグループで考える -授業設計(10min) ※適宜指導主事からの助言 c) 授業案をグループで考える -評価(10min) ※適宜指導主事からの助言 d) 授業案をグループで考える -授業活動/指導手法(10min) ※適宜指導主事からの助言 ※ICTの効果的な活用例としてタブレットの紹介 e) 授業案をグループで考える -まとめ(15min) ※適宜指導主事からの助言 f) 全体の共有(15min)	学習プラン表
6	11:25 (5分)	クロージング	研修全体の学びを振り返り、3学期からの実践にいかしたいこと、他者に伝えたいことを整理する。 安藤先生 教頭先生ご挨拶	アンケート

以上

大衡小学校 第2回目研修会アンケート

- (1) 1回目の研修の内容と成果を、今日の研修に活かすことができましたか？
 (2) (1) でそのように考えた理由を教えてください。
 (3) 事前学習の成果を、今日の研修で活かすことができましたか？
 (4) (3) でそのように考えた理由を教えてください。
 (5) 今日の研修は、あなたの授業づくりに役立ちそうですか？
 (6) (5) でそのように考えた理由を教えてください。

(1) (3) :1: そう思わない, 2: あまりそう思わない, 3: どちらともいえない, 4: 少しそう思う, 5: そう思う

(5) :1: 役に立たなそう, 2: あまり役に立たなそう, 3: どちらともいえない, 4: 少し役に立ちそう, 5: 役に立ちそう

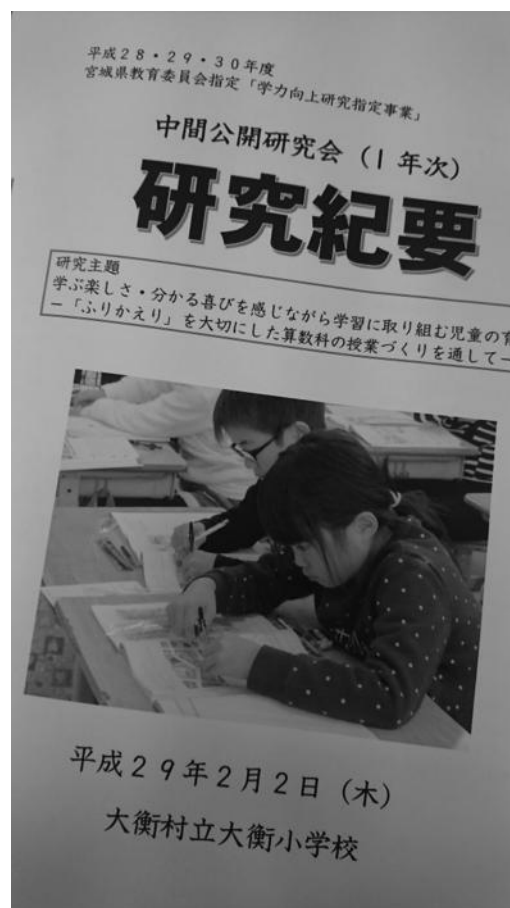
学年	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
1年生	4	大衡小の児童の課題を把握できていた点	4	事前に流れなど見ていたので説明が(そういうことだったのか!)と入ってきやすかった。予習の大切さを再確認できた。	5	授業を組み立てていく中で、子供につけたい資質能力やICT活用などを意識できるようになったと感じた。
		1回目は欠席しました	3	事前学習不足でした	4	まだ機械が使えないから
2年生	3	直接的につながる部分は少なかったのでは?と思う	4	事前に少しでも研修会の内容・用語等を知ることができたので	3	ワークショップ型研修はあまり身になるところがないと思うので。
	4	キーワードをプランに活かせたから	3	直結はしていないと考えたから。「知る」意味では見て・読んでおいてよかった。	4	すでに作成した指導案について色々な視点で見直すことができたから。
	4	育成したい能力があって、日々の授業を再認識できました。	3	事前学習の内容を意識できた場面があまりなかった。	4	授業で行っていることが、子供たちのどのような力を高めようとしていることなのかを意識できそうな気がした。
3年生	4	育てたい資質・能力を意識することができた	4	ICT活用が有効な場面や逆効果になる場面について意識することができた	5	(4)と同様
	5	効果的なICTの活用について少しわかったから	4	事前学習をしなければ理解するのが難しかったかもしれないと思うので。	5	ICTの活用方法が少しわかったので
4年生		1回目は受講していません(出張のため)	5	ICTの活用例、プロジェクト型アプローチについて事前に知っていたので、話の内容が理解できた。	5	「育てたい資質・能力」「実社会とのつながり」を意識した授業づくりの必要性をとて感じた。
	2	前回の分析で挙げた大衡小の課題(児童の読解力や意欲など)を改善したり、伸ばしたりする具体的な手法が見られなかった。	2	プロジェクト型学習が活かされないように感じた(事前学習の内容メイン)	2	21世紀型能力・スキルなどテーマが壮大すぎるため
5年生	4	1回目で本校児童の実態を踏まえて育成したい資質・能力が明確になった。2回目それを活かす形となった。	4	ICT活用の効果を踏まえ、どこでどう活用するといった具体的な場面で考えることができた	5	ICTはあまり活用できていなかったもので、今後もっと活用していきたい。
	4	児童につけていきたい力をはっきりさせた上で、授業組み立てを考えることができたと思う。	4		4	ICTの活用のポイント、これからの学びのあり方が参考になった
	3		3		4	
6年生	5	前回の内容を受けて授業について考えることができたから。	3	研修内容が思ったほどICTに特化した内容ではなかったから。	3	やや遠い未来についてのこのように思えたから(目の前の課題解決とどう結びつけるのか…)
	4	大衡小の課題を共有できていたため	3	事前学習ビデオは今後の紹介?なのか事前に目的を教えてください。本は参考になった。	5	AIに仕事が代替される世の中と変化していくため、今後必要とされるスキルについてより考えていく必要があると思った。
	4	前に出た課題を今回のワークショップの課題のきっかけとした。	3	事前学習の内容が抽象的で思い通りに理解できなかった。	4	授業計画の立て方が参考になったから。

- (7) 今回の研修をとおして、あなたは今後どのような事に取り組もうと考えましたか？
- (8) (7) を実現するにあたり、必要なもの（障害）があれば記入してください。
- (9) 今回の研修をより良いものにするため、お気づきの点やご意見をお願いします。

学年	(7)	(8)	(9)
1年生	学年ごとの積み上げの大切さ、その学年でつけさせたい力を自分がしっかり理解し指導に当たりたい	大衡でのマニュアルのようなものがあるとよいと思いますが、作成する方法や時間の確保が難しいのではと思う。	大変勉強になりました。ありがとうございます。
	今回のような授業を試みる	機械の使い方を知ること	課題が難しい（色々なとらえ方ができるので）
2年生	授業デザインする際の視点の置き方を考え直してみる	時間的余裕	与えていただきたい・知りたいことが多くあるので、ワークショップ型研修はやめてほしい
	自分も子供時代によく思った「これ何に役立つの？」は、今の子供たちも思っている。今回、指導書などに明記されていない「実社会とのかかわり」をもっと考え、伝えられたらと思った。	時間的な問題（教材研究の時間が不足し過ぎ、1単位時間の進み具合が大衡小の児童には速い）	・準備物を予め伝えてくれると助かる（今回は教科書）・いちど10:35までと言ったリミットを11:10まで大幅に変えないでほしい（ペースを考えて取り組んだのに調子が狂う）
	評価の観点をできるだけ明らかにして授業を考えたい		盛りだくさんで時間不足ではないかと思う
3年生	何のために何を使うのかや、ICTの効果的な使い方等に留意しながら教材研究を進めていきたい	授業設計等にかかる時間の不足	
	ICTを活用した発音指導	iPad、ICTを活用するためのスキル	大変参考になりました。ご指導ありがとうございました。
4年生	「何を教えるか」から「どう教えるか」「学び方を学ぶ」へ移行していけたらと思う。	教科書の内容が多すぎるため、とても忙しく教えなければならない。学習内容の精選が必要。	
	6年生になったときの子ども像のビジョンを共有し、そのためにできることを実践していきたい。		タブレット端末の基本的な使い方を0から教えてほしい
5年生	時期学習指導要領を踏まえ、効果的なICT活用により児童の力を高めていく授業づくりを模索していきたい。	タブレットが足りない。	内田洋行の説明後ワークショップでどの程度具体的に書いたらいいかわからなかった。ワークショップの入る前の説明がもう少しあるとよい。
	今教えていることが、実社会でどのようにかわるのかを意識して取り組んでいきたい。		
	保健指導を行うときにうまくICTを利用してみたいと思う。		
6年生	21世紀型スキルを身につけさせる授業実践	・ICT環境の整備 ・保護者の意識	具体的に他の方がどのように取り組んでいるのか実践例等を紹介してほしい。
	児童が学習の中心になるときのICTや教師の役割を考えながら取り組む	授業時数、個人差への対応⇔多人数に対して教師1名	ありがとうございました。
	ICT機器の使い方	ハード面の充実	集中が続かないので時間通りに進めてほしい。

大衡小学校における研修 3 回目（公開授業）

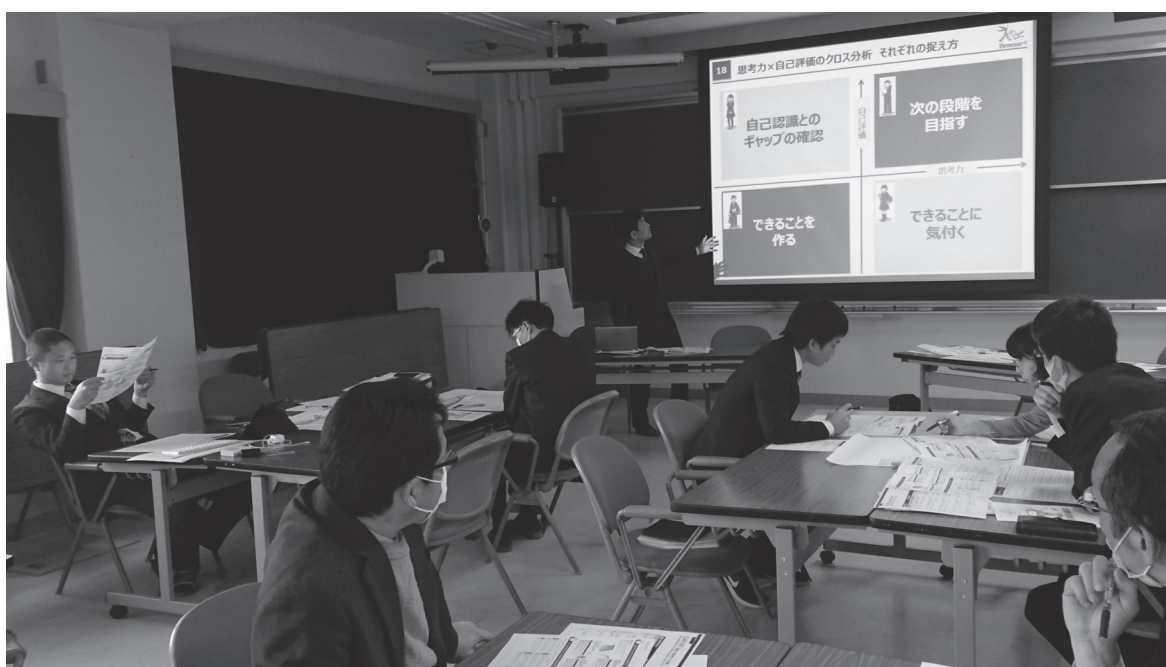
- 実施日：2017 年 2 月 2 日
- 実施会場：大衡小学校
- 参加者：県内外の学校関係者多数
- 実施の趣旨・目的：これまでの研修の成果も活かして授業を実施する
- 実施のスケジュール
 - 13:00-13:30 全体会
 - 13:40-14:25 公開授業
 - 14:40-15:30 分科会
 - 15:40-16:10 全体会Ⅱ（閉会行事）
- 当日の配布物
 - 研究紀要，指導案等
- 授業と分科会の様子



今回の授業者の先生は、これまでタブレットを使用したことの無い方で、今年度から初めて活用している。しかし、授業の導入場面で児童に手順を動画で見せ、それを繰り返しや一時停止を用いて、課題の共有化を効率的に進めていた。2 回の研修で得られた児童の実態と ICT の手立ての知見で、無理なくタブレットの機能を生かせたと思われる。

多賀城高校における研修

- 実施日：2017年2月17日
- 実施会場：多賀城高等学校
- 参加者：多賀城高校の教員33名
- 実施の趣旨・目的：思考力スキル測定アセスメント「GPS-Academic」を生徒と教員対象に実施し、その結果の考察と授業改善の視点について研修する。
- 実施のスケジュール
 - 11:00-11:05 趣旨説明
 - 11:05-11:15 GPS-Academicの説明と先生方の結果の見方の説明
 - 11:15-11:20 個人ワークのレビュー
 - 11:20-11:30 生徒の結果報告
 - 11:30-12:00 結果のレビュー（共通点と相違点）と手立てに照らした考察
 - 12:00-12:20 授業改善の視点
 - 12:20-12:30 講評・ワークシート記入
- 当日の配布物
 - 生徒個人帳票，教師用帳票，ワークシート・アンケート
- 実施の様子



2017年2月17日(金)

校内研修会ワークシート

校務・分掌

ご担当教科

ご担当学年

番号

【ワーク1】先生ご自身の強みは、どのような点だと考えられますか。また、結果について先生ご自身の認識と一致していたことや相違点はありましたか。

強みと考えられること

結果について、認識と一致していたこと/違っていたこと

【ワーク2】先生ご担当(分掌・教科・学科/クラスなど)の視点で、生徒の強みは、どのような点だと考えられますか。また、結果について生徒に対する認識とどのような相違点がありましたか。

強みと考えられること

結果について、認識と一致していたこと/違っていたこと

【ワーク3】先生ご自身および生徒の強みは、授業の中でどのように活かそう・引き出せそうですか。

授業内で先生ご自身の強みが活かそうな活動

授業内で生徒の強みが引き出せそうな活動

【ワーク4】授業の中でどのような点を、より気を付けたほうが良いと思いますか。

授業内で先生ご自身が留意したい点

授業内で生徒に留意させたい点

【ワーク5】今年度は、タブレット端末を授業に活用されてきたと思います。上記の効果を高めるために、来年度はどのようなICT活用をしてみたいですか。

校内研修会アンケート

Q1. 先生自身は、21世紀型スキルのような汎用的な能力について関心がありますか？

7 6 5 4 3 2 1
とてもある どちらともいえない まったくはない

Q2. ICTリテラシーにおいて、今回のような客観的なアセスメントの評価が必要だと思いますか？

7 6 5 4 3 2 1
とても思う どちらともいえない まったく思わない

Q3. 先生自身は普段の授業の中で、生徒へ知識・技能の定着を重視していますか？

7 6 5 4 3 2 1
とてもしている どちらともいえない まったくしていない

Q4. 先生自身は普段の授業の中で、生徒の主体性を活かす活動を重視していますか？

7 6 5 4 3 2 1
とてもしている どちらともいえない まったくしていない

Q5. 先生自身は普段の授業の中で、生徒の卒業後にも活きる指導や授業を重視していますか？

7 6 5 4 3 2 1
とてもしている どちらともいえない まったくしていない

Q6. 「GPS-Academic」で、先生自身の認識と異なる新たな気づきが得られましたか？

7 6 5 4 3 2 1
とても得られた どちらともいえない まったく得られていない

Q7. 「GPS-Academic」で、生徒の特徴を把握することが、授業設計に有効だと思いますか？

7 6 5 4 3 2 1
とても有効だと思う どちらともいえない まったく有効ではない

Q8. 「GPS-Academic」で、生徒の特徴を把握することが、生徒指導・生活指導に有効だと思いますか？

7 6 5 4 3 2 1
とても思う どちらともいえない まったく思わない

Q9. 「GPS-Academic」を今後生徒向けに実施し、今回の結果との違いを確認したいと思いますか？

7 6 5 4 3 2 1
とても思う どちらともいえない まったく思わない

Q10. 「GPS-Academic」を用いた今回の研修は先生にとって有意義だったと思いますか？

7 6 5 4 3 2 1
とても思う どちらともいえない まったく思わない

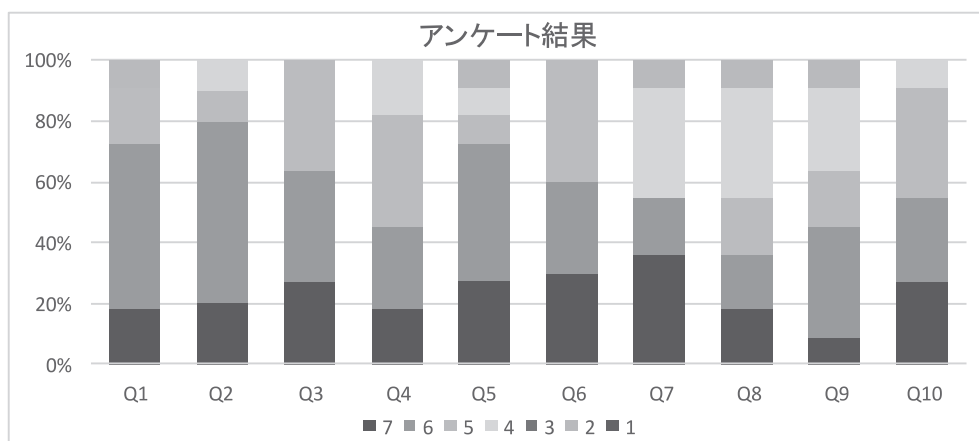
多賀城高校 研修会ワークシートの記述

参加者番号	【ワーク1】 先生ご自身の強みは、どのような点だと考えられますか。 また、結果について先生ご自身の認識と一致していたことや相違点はありましたか	【ワーク2】 先生ご担当（分掌・教科・学科/クラスなど）の視点で、生徒の強みは、どのような点だと考えられますか。 また、結果について生徒に対する認識とどのような相違点がありましたか。		
	強みと考えられること	結果について、認識と一致していたこと/違っていたこと	強みと考えられること	結果について、認識と一致していたこと/違っていたこと
1	情報を一般化し、関連づけること。	一致：研究テーマを決める時など、様々な視点を合わせて考えることができていた。 違う：社会に参画する意識は高いと思っていたが、視野が狭くならないようにしたい。	他者と協力して活動すること。	グループ学習などを行っても互いに教え合うなど周りを意識して行動できている。
2				
3	評価が低いので強みはないと思う。			
4	・情報の分析 他者との相違の把握。	一致：情報の吟味 違い：論理的な組立（客観性<主観的との評価）		
5				
6	・学校（教員あるいは生徒）全体のバランスを保つ、偏らないような提案をしていくこと。 ・情報の収集	・論理的組み立てて表現する力が不足しているという点は認識と一致していなかった。 ・自分では、何か特に優れたスキルや、分野があるというより、調整力がある方だと思っており今回の結果と一致した。	・他者との協働し、校外（地域、社会）へ発言する力、アイデアを出し合う力	・7組の生徒が自己評価が高い（やりがいを持って活動をしている）というのは予想と一致していた。 ・本校のご数年の活動や授業（チーム学習、アクティブ・ラーニング、ICT活用）の工夫によって他者と協働できる能力が身についたのでは？
7	協働できること、資料の分析	論理的思考が低い認識はあったが、ここまで低いとは思わなかった。	1学年との兼ね合いがなく、お答えできません。	1学年との兼ね合いがなく、お答えできません。
8	協働的思考力	だいたい一致していた。	仲が良くなると、持っている力を発揮する。	
9	協働的思考力	特になし。 前知識・経験がある内容については、高評価が得られるようだ。		7組が、自己評価が高いと思っていることは、理解できる。 実習等、対外的行事が多いことが関係しそう。
10	無解答のため評価は下がったが、批判と創造は強みである。	創造的思考力が予想より高かった。		
11	情報を抽出して吟味する力	論理的に組み立てて表現する力が認識と違っていた	協働的思考力	協働的思考力が意外に高い。

参加者番号	【ワーク3】 先生ご自身および生徒の強みは、授業の中でどのように活かそう・引き出せそうですか。		【ワーク4】 授業の中でどのような点を、より気を付けたほうが良いと思いますか。		【ワーク5】 今年度は、タブレット端末を授業に活用されてきたと思います。 上記の効果を高めるために、来年度はどのような ICT 活用をしてみたいですか。
	授業内で先生ご自身の強みが活かせるような活動	授業内で生徒の強みが引き出せるような活動	授業内で先生ご自身が留意したい点	授業内で生徒に留意させたい点	
1	関連づけが得意→単元だけでなく、教科横断的につながりを持った授業展開	協働的思考力が高いため、グループワークなど、できる生徒がまだ解けていない生徒を助けるような活動。	論理的に一貫性のある説明を心がける。	論理的に考える。問題を解く際に暗記でなく、解くプロセス（ストーリー）をとらえさせたい。	生徒同士で教え合うことができるようにするため、反転学習を行いたい。 反転学習のツールとして、動画で解き方や実験を説明したものをアップしたい。 生徒自身が自分の到達度を、細かく確認できるアプリ等。
2					基本問題・中間問題・応用問題の分担配信。相互に与えられた問題を議論・思考し、自分の力によって示すことができるようになるので、結果として、思考力の底上げにつながる。今年度1回だけ試行したが、効果は絶大である。
3					
4					
5					
6	学年全体や他教科と協力して実践する活動（教科横断的内容）	ひっこみ思案だったり、人前で意見を言えない生徒も授業内の話し合に参加できるように導く（上部「強み」に破線・矢印して「ではないか」と記入あり）	・生徒の能力を決めつけることをしない。こちらの予期せぬ力を持っているかもしれない。	・わからない内容難しい内容でも（努力して）考えるようにする。あきらめない。	・これまではタブレット1台（自分用）を用いることが多かったが、次年度はチーム（班）毎にタブレット端末を配布し双方向の用い方をしてみたい。
7	アクティブ・ラーニングのような授業においてグループワークの円滑化。	分かりません（ワーク2の理由と同じ）	論述を生徒にさせる時、客観性をもたせること。	分かりません（ワーク2の理由と同じ）	協働作業の一助として、タブレット等を生徒に使用させたい。 ・iTunes-Uのようなものを iOS 以外でも。 ・英文法を自学できるもの。教員が学習セットのようなものを作成できて、生徒はそこで練習できる。←単語版では Quizlet があるが、文法的なものは見つけられていない。
8	協働学習				古、漢の映像
9	生徒、個が表現する考えを理解・解釈し、個に応じた活動	生徒の理解の段階に合わせた発問の仕方。	解決すべき課題の明確化、課題解決に向けたスモールステップの確認。	数式を活用する論理的背景の理解をうながす。	・自分の学習活動を振り返ることのできるような使い方。 ・結果でなくプロセスが表れる使い方。
10					
11					

■質問内容（回答の数値が高いほど肯定的評価。最高 7）

- Q1. 先生自身は、21 世紀型スキルのような汎用的な能力について関心がありますか？
- Q2. ICT リテラシーにおいて、今回のような客観的なアセスメントの評価が必要だと思いますか？
- Q3. 先生自身は普段の授業の中で、生徒へ知識・技能の定着を重視していますか？
- Q4. 先生自身は普段の授業の中で、生徒の主体性を活かす活動を重視していますか？
- Q5. 先生自身は普段の授業の中で、生徒の卒業後にも活きる指導や授業を重視していますか？
- Q6. 「GPS-Academic」で、先生自身の認識と異なる新たな気づきを得られましたか？
- Q7. 「GPS-Academic」で、生徒の特徴を把握することが、授業設計に有効だと思いますか？
- Q8. 「GPS-Academic」で、生徒の特徴を把握することが、生徒指導・生活指導に有効だと思いますか？
- Q9. 「GPS-Academic」を今後も生徒向けに実施し、今回の結果との違いを確認したいと思いますか？
- Q10. 「GPS-Academic」を用いた今回の研修は先生にとって有意義だったと思いますか？



研修として、汎用的能力から生徒の実態を客観的に把握し授業改善へつなげる研修として全体的に肯定的に評価された。特に以下の 3 点について肯定的に捉えられた。

- ・ ICT リテラシーにおいて、客観的なアセスメント評価が必要
- ・ 先生は授業の中で生徒の知識・技能の定着を重視
- ・ GPS-Academic で新たな気づきを得られた

一方、Q7~9 において評価 4（「どちらともいえない」に相当）が比較的目立つ理由は、Q7 の場合、対象校が高校のため研修に参加していた教員が対象生徒のことを知らないというケースが効いたと思われる。これは Q6 との相関係数が 0.73(p<0.05)からも裏付けられる。同様に Q8 の場合も、直接生徒指導を行う機会がないことが影響していると考えられる（Q6 との相関係数は 0.66(p<0.05)）。Q9 についても、Q7 および Q8 の同様の影響を受けたと考えられるが、特に Q7 との相関係数は 0.94(p<0.001) と非常に高い相関関係にあった。これらを考察すると、GPS-Academic を用いた今回の授業改善ワークショップスタイルの場合には、参加する教員自身が直接関係する生徒を対象とすることが重要であることが示唆された。

また、今回のような汎用的能力に関する研修については、Q1(21 世紀型スキルへの関心)との相関関係が 0.61(p<0.05)であることから、個別の学力指向のみならず次期学習指導要領でも期待される、知っていること・できることをどう使うかという汎用的な能力に対する理解を高める必要性も示唆された。

宮城県総合教育センターにおける研修キーワード

内容学と方法論の観点から、宮城県総合教育センターの情報教育に関する研修にキーワードを付し、受講者にとって、研修の位置づけが明確になるように整理した。来年度の同教育センターでの情報教育に関しては、この整理に基づいて実施を行うこととなった。

「情報教育に関する研修」内容対応表

		研修のキーワード								文部科学省 教育の情報化 3つの柱			
		情報モラル	アクティブ・ラーニングの視点	児童・生徒によるICT活用	教員によるICT活用	MIYAGI Style	地域や保護者への情報発信	校内LAN活用	情報セキュリティの確保	校内研修	情報教育	教科指導におけるICT活用	校務の情報化
99	プレゼンテーションソフト活用基礎研修会		○	○	◎						○	◎	
100	Web サイト作成基礎研修会 (Net Commons)						◎			○			◎
101	ICTを活用した授業づくり研修会		○	○	○	◎				○	○	◎	
102	高等学校ICT機器活用基礎研修会		○	○	○	◎				○	○	◎	
103	特別な支援を必要とする子どもたちへのICT活用研修会		○		◎	○				○		◎	
104	ネット安全教育研修会	◎								○	○	◎	
105	ネットワークサーバー活用研修会							◎		○			◎
106	情報セキュリティ研修会									◎	○		◎
107	タブレット端末活用基礎研修会 (A・B・C)		○	○	○	◎				○	○	◎	

◎研修の中心となるキーワード

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、宮城教育大学が実施した平成 28 年度「総合的な教師力向上のため調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。